＜報告＞

教員養成系大学生に対する「春の七草」と「秋の七草」の認知度調査：信州大学教育学部生の事例

篠原太一[1]・井田秀行[2,*]

Survey on the awareness of the "Seven traditional herbs of spring" and the "Seven traditional herbs of autumn" for undergraduate teacher-training students in the Faculty of Education, Shinshu University, Japan.
Taichi SHINOHARA[1], Hideyuki IDA[2,*]（[1]Couse of Science Education, Training Courses for School Teachers, Faculty of Education, Shinshu University, [2]Faculty of Education, Shinshu University. [*]Faculty of Education, Shinshu University, Nagano 380-8544, Japan, E-mail : pida@shinshu-u.ac.jp）*Bulletin of the Institute of Nature Education in Shiga Heights, Shinshu University* **57** : 29-33（2020）.

はじめに

教員として地域の自然・環境教育に携わっていくには，大学の教員養成課程の段階で，身近な自然に関する知識や季節の変化を敏感に感じ取れる資質・能力を身につけておくことが望ましい（井田・青木2006）。信州大学教育学部では，小学校教員免許取得必修科目である「理科基礎」の生物分野の講義において，身近な自然を題材にした授業を2015年度より行っている。人と自然の関わりとその歴史への理解を深めるため，当該講義の導入には，暮らしや風習に関わる伝統的な植物や身近な自然環境に対する意識，知識，体験などについてのアンケート調査を行っている。本稿では，身近な自然を題材にした授業を考えるための基礎資料として，2017年から2019年にかけて実施したアンケート調査のうち「春の七草」と「秋の七草」への認知度についての集計結果を述べる。

アンケート調査の概要

対象学生

対象学生は，平成29（2017）年度前期および後期・30（2018）年度前期・令和元（2019）年度後期の同学部「理科基礎」（小学校教員免許取得必修科目）の受講者（学部２，３年次生を中心とした計497人，内訳：2017年228人，2018年139人，2019年130人）である。本稿著者の井田が担当教員を務め，講義のテーマは生物分野「身近な自然」である。アンケートの内容は，井田・青木（2006），森谷ほか（2016）を参考に作成した。

設問の内容

日本の伝統植物など身近な自然に対する認識を把握するための問いを，2017年は17項目，2018・2019年は18項目（記述，選択，描画問題含む）設けた。設問の構成は，幼少期の生活環境および自然体験に関する質問（属性４～７）と日本の伝統植物や樹木に関する知識（Ｑ１～８：2017年，Ｑ１～10：2018・1019年）に加えて，自然に対するイメージ図（Ｑ９・10：2017年）（付録１）ないし草花を使った遊び（Q11：2018・2019年）である（付録２）。これらの設問を印刷した紙を配布（2017・2018年），またはGoogleフォーム（2019年）を使い，成績評価の対象ではなく研究用に使用する旨を説明した後，20分前後の回答時間を設けた。今回は，特に「春の七草」と「秋の七草」に対する学生の認知度を明らかにすることを目的とし，このうち「春の七草」（Ｑ１：2017年，Ｑ１・２・５：2018・2019年），「秋の七草」（Ｑ３：2017年，Ｑ６・７・８：2018・2019年）に関する設問についてのみ集計した。

記述解答の処理方法

Ｑ２（2018・2019年）の「春の七草をどこで（誰から）聞いたか」とＱ７（2018・2019年）の「秋の七草をどこで（誰から）聞いたか」では，それぞれＱ１（2018・2019年）とＱ６（2018・2019年）で「ある」と答えた学生を対象に，複数回答も含む全ての回答を集計した。

Ｑ１（2017年）およびＱ５（2018・2019年）の「春の七草」の正答は，湯浅（1994）より，セリ，ナズナ（ペンペングサ），ゴギョウ（オギョウ，ハハコグサ），ハコベラ（ハコベ），ホトケノザ（コオ

[1] 信州大学教育学部学校教育教員養成課程理科教育コース
[2] 信州大学教育学部（[*]別刷請求先　信州大学教育学部　〒380-8544　長野市西長野６のロ　E-mail : pida@shinshu-u.ac.jp）

ニタビラコ），スズナ（カブ），スズシロ（ダイコン）とし，Q３（2017年）およびQ８（2018・2019年）の「秋の七草」の正答は，ハギ，ススキ（オバナ），クズ，カワラナデシコ（ナデシコ），オミナエシ，フジバカマ，キキョウ（朝貌（あさがお））とした。なお，試験ではないので，仮名書き・真名書き・漢字併記の混在は問わず，軽微な誤字脱字についても明らかにその種名と判断できる場合は正答とし，各設問で記述のないものは全て無回答として処理した。

集計結果

回答者の属性

アンケートの回答は受講生497人の全員から得た。出身都道府県は全国に及び，長野県が46.1％（229人）と約半数を占め，次いで多いのが，愛知県で6.1％（31人）であった。地方別では，長野県を除き，中部地方（22.5％）が最も多く，次いで関東地方（17.7％），近畿地方（6.2％）となった。その他は，東北地方（3.8％），中国地方（1.8％），九州地方（1.4％），北海道地方（0.2％），四国地方（0.2％）であった。

「小学生までで，主に過ごした地域の周りの印象」（属性４）では，「田や畑，海，山などがあり，自然に囲まれていた」が73.0％（363人），「住宅地や街中で，自然があまりなかった」が27.0％（134人）であった。「小学生までで，最もよくした遊び」（属性５）で最も多いのは，「遊具・スポーツ」（39.0％：194人）で，次いで「伝統的外遊び」（27.4％：136人），「自然遊び」（14.9％：74人），「現代的な遊び」（10.5％：52人），「伝統的内遊び」（8.2％：41人）であった。これらの結果から，多くの学生は幼少期に自然を身近に感じられる中で暮らし，遊具・スポーツや自然遊びなど野外で遊んでいたと感じていることが示された。井田・青木（2006）では，「地域周りの印象」は「田や畑などがあり，自然に囲まれていた」が62％で，今回の方が11ポイント上昇していた。また，井田・青木（2006）では「幼少期によくしていた遊び」が自然遊び，伝統的外遊び，遊具・スポーツを合わせた外遊び全般で90.9％であったのに対し，今回の調査では，外遊び全般で82％と，2006年よりも外遊びの割合がやや減少していた。

「小学生までの，学校行事以外で登山やハイキング・トレッキングの経験」（属性６）に対し，「まあまああった」と回答した学生は35.0％（174人）であった。次いで，「あまりなかった」27.4％（136人），「ほとんどなかった」26.6％（132人），「多くあった」10.9％（54人），無回答0.2％（１人）で，学校行事以外では登山やハイキング・トレッキングの経験が少ない傾向があった。

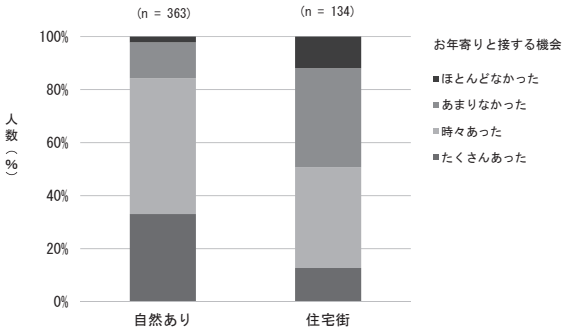

図１　「小学生までで，主に過ごした地域の周りの印象（属性４）」別にみた「小学生までの，地域や親類とのお年寄りとのふれあい（属性７）」の人数構成比（カイ二乗検定，$p<0.01$）
自然あり：田や畑，海，山などがあり，自然に囲まれていた
住宅街：住宅地や街中で，自然があまりなかった

「小学生までの，地域や親類とのお年寄りとのふれあい」（属性７）に対し，「まあまああった」と回答した学生は47.7％（237人）であった。次いで，「多くあった」137人（27.6％），「あまりなかった」99人（19.9％），「ほとんどなかった」24人（4.8％）であった。井田・青木（2006）では，「お年寄りとの関わり」は，「多くあった」と答えた学生が40％であり，お年寄りとの関わりは減少傾向にあった。「小学生までで，主に過ごした地域の周りの印象（属性４）」別にみた「小学生までの，地域や親類とのお年寄りとのふれあい（属性７）」を見ると，お年寄りと接する機会は，住宅地よりも自然がある環境で育った学生のほうが多い傾向があった（図１）。

「春の七草」への認知度

「春の七草という言葉を聞いたことがあるか」（Q１：2018・2019年，n＝269）では，「ある」と答えた学生が95.2％であった。「ある」と答えた学生（256人）のうち「春の七草をどこで（誰から）聞いたか」（Q２：2018・2019年，延べ431件）では，母が最も多く（33.2％），次いで家族（母および祖母を除く）（22.5％），祖母（16.7％）となっていた（表１）。「春の七草を答えてください」（Q１：2017年，Q５：2018・2019年，n＝497）では，正答数７が最も多く39.3％だった。正答数６と５はそれぞれ5.1％，5.9％であった。一方，正答数０の学生

は24.7%で，これに正答数１（7.5%），２（7.7%），３（4.9%），４（4.8%）を合わせると49.7%となった。各種名の正答率のレンジは49.3〜67.2%とややばらついたものの（カイ二乗検定，$p<0.01$），いずれもほぼ半数以上であり，ナズナやセリで高い傾向が見られた（表２）。また，井田・青木（2006）の調査結果では正答数７の割合が16.6%であったのに対して，今回の調査では39.3%と春の七草を知っている学生が多くなっていた。正答数０についても井田・青木（2006）で28.9%だったのが今回24.7%と少なくなっていた。

表１　「春の七草」をどこで（誰から）聞いたか

母	33.2%
家族（母および祖母を除く）	22.5%
祖母	16.7%
学校	14.2%
メディア（TV，ニュース，教育番組，アニメ）	9.7%
その他（スーパー，塾，本，マンガ）	3.7%

（延べ431件，計100%）

表２　「春の七草」の種ごと（n＝497）の正答率

ナズナ	67.2%
セリ	62.2%
ハコベラ	57.7%
ホトケノザ	54.9%
スズシロ	53.5%
スズナ	53.3%
ゴギョウ	49.3%

「秋の七草」への認知度

「秋の七草という言葉を聞いたことがあるか」（Q６：2018・2019年，n＝269）では，「ある」と回答した学生が41.0%と，「ない」を下回り，「春の七草」よりも大幅に少なかった。「ある」と答えた学生（109人）のうち「秋の七草をどこで（誰から）聞いたか」（Q７：2018・2019年，延べ141件）では，学校が最多で（26.2%），次いで母（22.7%），家族（母および祖母を除く）（16.3%）となった（表３）。「秋の七草を答えてください」（Q３：2017年，Q８：2018・2019年，n＝497）では，正答数０が圧倒的に多く78.9%であった。正答数１は10.5%で正答数２，３，４はそれぞれ4.0%，2.2%，0.6%であった。正答数７であった学生は1.8%とわずかで，５（0.8%），６（1.2%）を合わせても４%に満たなかった。各種名の正答率では，ススキの正答率が14.9%と最も高く（カイ二乗検定，$p<0.01$），その他は7.8%以下であった（表４）。井田・青木（2006）の調査でも同様に，秋の七草の正答数０が最も多く，80%であった。これらの結果から，秋の七草への認識は2006年と同様に低いことが分かった。春の七草のように聞いたことがあれば，調べることなどの機会が生まれるが，秋の七草はそもそも聞いたことがないという学生が多く，認識される機会自体が非常に限られているということが示唆された。

表３　「秋の七草」をどこで（誰から）聞いたか

学校	26.2%
母	22.7%
家族（母および祖母を除く）	16.3%
祖母	14.2%
その他（スーパー，塾，本，マンガ）	11.3%
メディア（TV，ニュース，教育番組，アニメ）	9.2%

（延べ141件，計100%）

表４　「秋の七草」の種ごと（n＝497）の正答率

ススキ	14.9%
キキョウ	7.8%
ハギ	7.2%
ナデシコ	5.6%
オミナエシ	5.6%
クズ	5.2%
フジバカマ	5.0%

アンケート調査にご協力いただいた同学部「理科基礎」受講生の皆様には，この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

引用文献

井田秀行・青木　舞（2006）教員養成系大学生の身近な自然観とそれに応じた自然教育．保全生態学研究 **11**：105-114

森谷まみ・山浦　攻・井田秀行（2016）教員養成系大学生における身近な自然に対する認識調査：信州大学教育学部生の事例，信州大学教育学部附属志賀自然教育研究施設研究業績 **53**：15-19

湯浅浩史（1994）植物と行事：その由来を推理する．朝日新聞社，東京

付録１

【平成29（2017）年度　理科基礎（生物）身近な自然に関するアンケート】

□　回答の正解・不正解は成績に反映されませんが，素直にお答え下さい。

□　自然・環境教育のあり方について検討する際の参考資料とします。

□　このアンケートによって得られた情報は研究のみに活用し，氏名の公表（個人が特定されるような公表）はしません。

属性１　生まれた年　　西暦（　　）年　（例：1996）

属性２　性別　　男　・　女

属性３　出身都道府県（　　）

属性４　小学生までで，主に過ごした地域の周りの印象はどちらかといえば？

１．田や畑，海，山などがあり，自然に囲まれていた

２．住宅地や街中で，自然があまりなかった

属性５　小学生までで，最もよくした遊びを一つ選ぶとしたら？

１．遊具・スポーツ

２．自然あそび（昆虫を捕まえたり，草花を採集したり，野山をかけまわったり等）

３．伝統的外遊び（鬼ごっこや缶蹴り等）

４．伝統的室内遊び（おままごと等）

５．現代的な遊び（カードゲーム，テレビ［やスマホ］のゲーム等）

属性６　小学生までで，学校行事以外で登山やハイキング・トレッキングの経験は？

１．多くあった　　２．まあまああった　　３．あまりなかった　　４．ほとんどなかった

属性７　小学生までで，地域や親類のお年寄りとのふれあいは？

１．多くあった　　２．まあまああった　　３．あまりなかった　　４．ほとんどなかった

Ｑ１　「春の七草」を答えてください。

Ｑ２　「春の七草」は，どんなところでよく見られると思いますか？

Ｑ３　「秋の七草」を答えてください。

Ｑ４　「秋の七草」は，どんなところでよく見られると思いますか？

Ｑ５　校庭で見られるような雑草の種名（植物の名前）を挙げてください。（複数可）

Ｑ６　どんぐりが芽生えた様子について，右枠内に描き加えて下さい。→→

Ｑ７　以下の樹木の中から正しく見分けられる樹木に丸をつけてください。

ヒノキ・スギ・アカマツ・カラマツ・ブナ・シナノキ・ケヤキ・シラカバ・コナラ・クリ

Ｑ８　Ｑ７の樹木以外で正しく見分けられる樹木名を書いて下さい。（複数可）

Ｑ９　「里山」を簡単に描いてみてください。（裏面を適宜使用してもよいです）

Ｑ10　「森」を簡単に描いてみてください。（裏面を適宜使用してもよいです）

付録２

【平成30（2018）年度　理科基礎（生物分野Ⅰ）身近な自然に関するアンケート】
※令和元（2019）年度は，平成30年度の内容を Google フォームにした。
※注意書きおよび属性１～７は平成29年度と同様

Ｑ１　「春の七草」という言葉は聞いたことがありますか？
Ｑ２　【Ｑ１で「ある」と答えた方のみ】どこで（誰から）聞いたか等，書いて下さい。
Ｑ３　七草粥（ななくさがゆ）を食べたことはありますか？
Ｑ４　【Ｑ３で「ある」と答えた方のみ】誰が作った，どこで食べたか等，書いて下さい。
Ｑ５　【Ｑ１かＱ３の少なくともどちらかで「ある」と答えた方に】「春の七草」ないし「七草粥」の植物であなたが知っている名前を記して下さい。
Ｑ６　「秋の七草」という言葉は聞いたことがあますか？
Ｑ７　【Ｑ６で「ある」と答えた方のみ】どこで（誰から）聞いたか等，書いて下さい。
Ｑ８　【Ｑ６で「ある」と答えた方のみ】「秋の七草」の植物であなたが知っている名前を記して下さい。
Ｑ９　解答欄にある樹木で，あなたが確実に見分けられると思う種類はどれですか？
Q10　校庭で見られるような雑草の名前を知っているだけ挙げてください。
Q11　草花を使った遊びであなたが覚えているものを教えて下さい。簡単なイラストでもよいです。